

# 未来への かけ橋

岡田りえの  
県政報告 No.1

発行 2008年3月3日

岡田 理絵

〒772-0032

鳴門市大津町吉永226-2

TEL 088-685-3537

FAX 088-683-0395



## 一年を振り返って ～緊張と感動の日々～

徳島県議会議員 岡田 理絵

自然のすべてのものが生命感あふれだす季節になりました。皆さんにおかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

昨年、鳴門市民の皆さまをはじめ多くの方々にご支援をいただき、徳島県議会議員として初当選させていただきました。心より厚くお礼申し上げます。

この一年を振り返りますと、「人と人・市民と県政・人と自然をつなぐ」をモットーに、県議として様々なことに取り組んで参りました。これもひとえに、皆さまのお力添えのおかげと深く感謝いたしております。本当にありがとうございます。

徳島県議会は年4回6・9・11・2月の定例会と委員会があります。11月定例会では初めて一般質問をさせていただきました。今、私は42歳。人生80年と言われるちょうど真ん中の世代だから見えることを、県民の目線で、女性の視点で質問いたしました。また、県内外の様々な所へ視察に行って参りましたが、現地の皆さんのが力を合わせ、その地の魅力を最大限に發揮しようと工夫されている取り組みに触れることができました。私にとってまさに、学ぶことの多い日々でございました。この一年、私が、見て・聞いて・感じ・考えたことをご報告させていただきます。そして、この体験をいかし、次の一年は、皆さんとともに、活動する一年へとつなげて参りたいと、決意も新たに全力でがんばる所存でございます。今後とも皆様の変わらぬご支援・ご指導をよろしくお願ひ申し上げます。

# 11月定例徳島県議会 一般質問より

(平成19年11月30日)



議会棟1階ロビー

## 問1 地域農業や漁業と密接に関わった「食育」の全県下展開について

**Q**

鳴門市内の小学校では、地域の農業・漁業の方と連携し子どもたちが実際に作業を体験する機会が増えている。収穫されたばかりの新鮮な食べ物には、食材本来の味があり、「採れたてはこんなにおいしい！」という感動を与え、旬の食材も知る事ができる。「食」は生きる源であり、季節感・自然の恵みに対する感謝の気持ちなど、「豊かな心」や「人間性」を育む基礎となる。子どもの時から「食育」をしっかりと実践することで、地域農産物や水産物に愛着が生まれるとともに、食の安心・安全への意識も高まり、徳島県の「未来の地域農業・漁業の担い手」としての将来の明るい展望も見えてくるのではないか。

(岡田)

**A**

(飯泉知事)

子どもの時からの食育は、生涯にわたる健全な食生活の基礎であり、学校においては栄養教諭などが中心となり学校給食における地産地消を進めている。また、地域の生産者と連携をし、収穫に至るまでの栽培管理や調理、加工、給食への利用、販売活動など、様々な体験を通した学習活動を県下各地で実施している。家庭での食育も広がりを見せ、この成果をさらに高めるため、教育機関や農林水産関係団体などとの連携を一層強化しながら、生産者と消費者の距離が近いという本県の特性を最大限に生かした食育を積極的に推進していきたい。

## 問2 (1) 「野菜ソムリエ」の方と連携を図ったとくしまブランドのPR戦略展開について

**Q**

(岡田)

最近、若い女性の関心が集まっている資格に「野菜ソムリエ」という、民間の資格がある。県内においても「野菜ソムリエ」の団体が設立された。例えば「新鮮なっ！とくしま号」に「野菜ソムリエ」の方が同乗し、情報発信力のある若い女性の世代などにPRしていくだければ新たな層の開拓ができると考える。



**A**

(農林水産部長)

野菜摂取量が少ないと言われている若い女性世代等において、その重要性や料理方法を伝え、生涯にわたる愛好者となっていただくことは大変重要である。野菜ソムリエの方々でベジフルコミュニティ徳島が設立されたが、その協力を得て若い女性など青年層に本県のおいしい野菜や果物の魅力を伝える活動や食育の推進などブランド浸透の効果を大いに高めたい。今後、野菜ソムリエの方々との協働活動など工夫を加え、信頼され購入していただくとくしまブランドのなお一層の確立に向け、全力で取り組んで参りたい。

## 問2 (2) 鳴門地域の水産業振興を図るために、今後の県の取り組みについて

Q

良好な漁場と先進技術の導入により発展してきた鳴門の漁業も、近年においては、水揚げ量の減少や価格安などの影響を受けており、水産資源の回復や、新たな販路拡大など、その対策が急務となっている。そのような中で、「とくしま・ブランド飛躍・戦略会議」において、従来のブランド品目「鳴門わかめ」に加え、ブランド育成品目として

「鳴門鯛」が新たに選定された。「更なる販路拡大」とPR活動による「ブランドイメージ」の浸透など、積極的な支援策の展開に期待したいと考える。

(岡田)

A

(農林水産部長) 播磨灘沿岸における藻場造成、サワラの資源回復の取り組みなどは着実に成果が上がっているが、他の地区と同様に、漁獲量の減少や魚価の低迷など、漁業者を取り巻く環境は厳しい。これまでの生産基盤の整備や資源増殖を行いながら、新鮮とくしまブランド戦略に基づき、芽生えワカメの商品化や、新たな生産技術の開発等により鳴門わかれにさらなる磨きをかけるとともに、本年度ブランド育成品目に選定された鳴門鯛の地域団体商標の取得などを支援したい。これらの施策の積極的な展開により漁業者の経営安定を図るとともに、うすしおに代表される鳴門の海のイメージやそのネームバリューを活用しながら、水産業の振興に全力を傾注したい。

### トピックス!

#### 鳴門わかめ作業視察

最盛期の2月中旬

おいしい旬の鳴門ワカメ収穫作業を調査してきました。ワカメの収穫の最盛期は一年で一番寒い1月下旬から3月です。最近では後継者不足問題や、高齢化の問題、作付面積や生産高の減少等の問題も深刻になってきています。また、海水に含まれる栄養分の低下などにより品質の良いワカメを作る条件が厳しくなってきています。今後、鳴門ワカメの品質の維持を図るために取り組み、生産量を上げる対策が必要であると考えています。



## 問3 「健康」をキーワードにした観光地の新たな魅力付加について

Q

本県は、関西から見れば四国の玄関口であり、四国から見れば関西との結節点という、位置的に恵まれた地域である。それをさらに生かすためにも観光振興に力を注ぐ必要があると考える。

鳴門公園地域を実際に歩くと、徒歩で移動できる範囲に観光スポットが点在していることに気づく。しかし、パンフレット等に移動時間の目安がなく不便に感じた。健康ブームの今、徒歩での移動はむしろ観光の魅力になるのではないか。最近では、「ヘルスツーリズム」という言葉もあるように、健康づくりを目的とする旅行が人気を集めつつある。観光スポット間の移動距離や徒歩での移動時間や平均歩数、さらには消費カロリーをパンフレットや案内板に記載すれば、「健康」を意識した県としての知名度が向上するのではないかと考える。

(岡田)

A

(商工労働部長) 県内においても健康志向を反映した観光の形として、歩き遍路はもとより、自然やありのままの暮らしを体験してもらう体験型観光、海、山、川の魅力を存分に生かしたアウトドアスポーツなどが定着しつつある。また、吉野川市美郷地区においては、薬草を使った特産品の開発や健康をテーマとしたツアーや実施されるなど、「キレイのさと 美郷」をテーマとした取り組みが進められている。県においても、スポーツ振興や健康増進に効果が期待できるとともに、徳島が誇る自然や風景を堪能していただけるとくしまマラソンの実施に向け、現在取り組んでいる。徳島の豊かな自然を生かすことに加え、議員御提案の観光スポット間の移動距離や消費カロリーなどを記載することも、集客につながる有効な方策であると考える。県としても地元と連携を密にし、健康をキーワードとした観光地づくりに努めたい。

## 問4 環境に対する県民意識の高揚とマイバッグ運動全県下普及について

Q

(岡田)

月面探査船「かぐや」からの「月から見た地球の入り」のすばらしい映像を見た。しかし、現実は、世界各地で異常気象が多発している。2008年から京都議定書の実行期間が始まり、温室効果ガス削減に向けて早急に、実効ある取り組みを進めなければならない。本県においては、「環境首都とくしま」の実現を目指して、地球温暖化対策に取り組んでいるが、温室効果ガスの部門別排出量の推移を見ると、排出量の大部分を占めている産業・民生・運輸部門の中で1990年と2004年を比較して、増加率が一番高いのが家庭などから排出される民生部門であり、33%増となり、大きなウェイトを占めている。地球温暖化対策の第一歩は、家庭において、一人ひとりの地道な取り組みが重要になってくる。海部郡においては、レジ袋の有料化によるマイバッグ運動の取り組みが行われている。日本で1年間に消費されるレジ袋は約300億枚にのぼり、製造エネルギーを原油に換算すると約56万キロリットルに相当し、日本の1日当たりの原油輸入量になる。現代に生きる地球人として、「限りある資源」について県民に普及・啓発していく必要があると考える。



A

(県民環境部長)

温室効果ガス排出の着実な削減を進めるため、平成18年3月にとくしま地球環境ビジョン（行動計画編）を策定し推進に努めている。平成21年4月の施行を目途に検討を開始したとくしま地球温暖化対策推進条例についても、徳島県環境審議会で十分に御審議をいただき、省エネルギーへの取り組みが広く県民に浸透するよう全力で取り組みたい。また、昨年6月に改正された容器包装リサイクル法においても、多量利用事業者の温室効果ガス排出抑制に向けた取り組みが盛り込まれ、県内でもマイバッグ推進やトレイや紙パックの回収等の取り組みが始まっている。特に海部郡内においては県内他地域に先駆け、ごみ減量化とCO<sub>2</sub>の削減を目指して、7月から美波町内、10月からは牟岐、海陽両町内へとレジ袋有料化実施区域が拡大し、マイバッグ持参率が80%を超える順調に推移し全国的にも注目されている。レジ袋の使用抑制を図るため、とくしま環境県民会議とも連携をしながら、県下各地域の関係団体等へ積極的に情報提供を行うなど、海部郡での取り組みをモデルケースとし、県民運動として県下全域に広げたい。

## 問5 (1) 鳴門地域を含む県東部圏域の組織再編について

Q

(岡田)

県政と鳴門市を含む県東部をつなぐ、大きな組織改革が、平成20年4月1日より、実施される。地方分権時代にふさわしい新たな体制で、迅速かつ質の高い県民サービスの提供を目指し、県東部の各機関を再編しようとするものである。総合県民局は設置しない東部圏域においても、縦割り行政を解消し県民の利便性の向上を図らなければならない。

鳴門には現在、合同庁舎があるが、東部の他の合同庁舎と違い、実際は財務事務所と土木事務所が入っているだけである。今回の再編により、土木事務所だけになり、扱う事務も減ってしまうのではないかと鳴門市民の方は心配されている。鳴門地区において、これまでの県民サービスを維持し、さらにメリットのある再編となるようご検討いただきたい。

A

(企画総務部長)

県東部圏域は、圏域内に本庁が位置することなどから、総合県民局を設置するのではなく、圏域内にある出先機関を事業分野ごとに機能集約し、東部県税局、東部保健福祉局、東部農林水産局、東部県土整備局として統合する。鳴門地区においては、現行の鳴門財務事務所、徳島保健所鳴門支所、鳴門土木事務所を、それぞれ東部県税局、東部保健福祉局、東部県土整備局として再編する。そのうち鳴門財務事務所は、課税、収税業務を徳島合同庁舎へ機能集約するとともに、納税証明書や軽油引取税免税証の交付など県民の皆様方へのサービス部門については、これまでと同様鳴門合同庁舎において実施する。また、徳島保健所鳴門支所については、保健所業務の見直しに伴い、現所在地での業務を終了し、医療給付や各種届け出の申請、受付などの窓口機能を鳴門合同庁舎に機能移転し、迅速で質の高い県民サービスが提供できるよう、組織体制の構築に今後とも努力したい。

## 問5 (2) 鳴門市のシンボルのひとつである小鳴門橋について

Q

小鳴門橋は、昭和36年大毛島と鳴門市撫養町をつなぐ、地域住民の生活に必要不可欠な橋である。しかし、大鳴門橋や明石大橋の開

(岡田) 通により、本州と四国を結ぶ大動脈の一部となり、平成19年9月の調査によると、鳴門北インターを出入りする大型・特大車は一日1366台、ほとんどが小鳴門橋を通っていると見込まれている。小鳴門橋の老朽化、震災時は大丈夫か、という不安の声も寄せられており、過去に補強改修工事をしているが、46年を経過する小鳴門橋について、利用者の「安心安全」のためにも、その耐用年数、また、耐用年数の観点から架け換えを検討するべきではないかと考える。

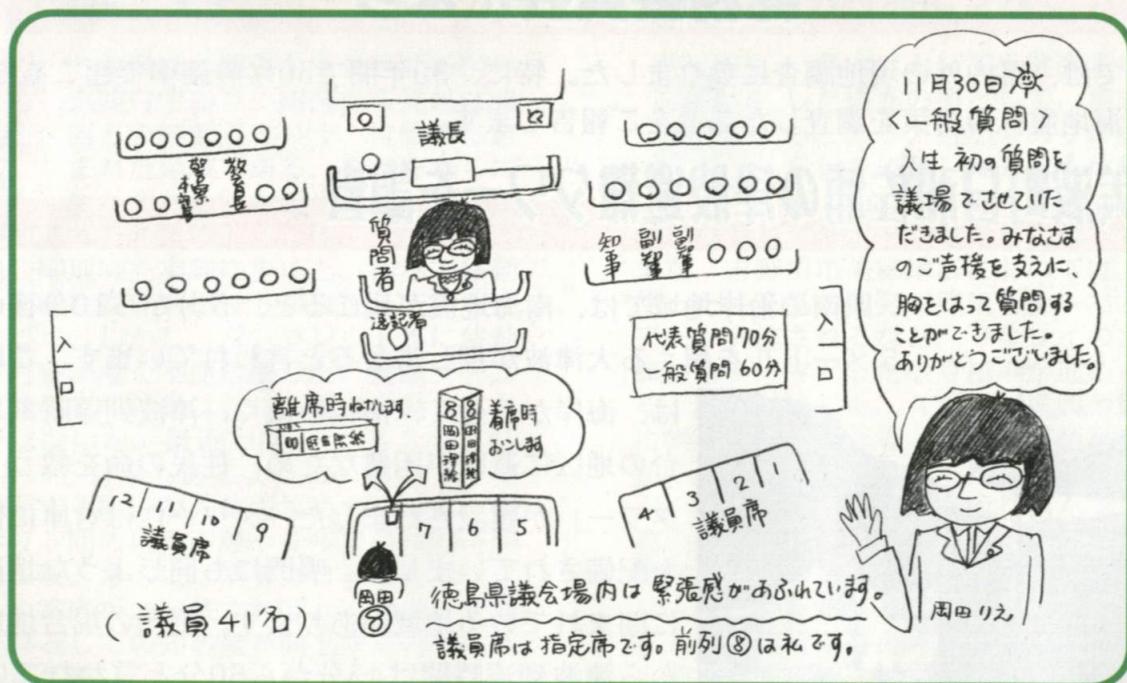
以上その他、スポーツ振興に関する取り組みや糖尿病対策についても質問しました。

A

小鳴門橋は鋼製つり橋であり、周辺地域に不可欠な社会基盤として、また鳴門公園へ向かう観光道路として重要な役割を担っている橋梁であり、これまで橋梁機能の保持・向上のため、2、3年に一度の割合で橋梁の点検・調査を行い、その都度必要に応じ再塗装・鋼材の交換・補強・増設などの工事を実施し、通行の安全確保に努めている。直近では平成16年度に橋梁台座部分の補修を実施した。従来より行っている点検・維持・補修に加え、予防保全の観点から、今年度より橋梁長寿命化修繕計画の策定を進めており、小鳴門橋の長寿命化についても十分検討し、今後ともメンテナンスを適切に行うことにより、長期にわたって有効に活用できるよう努めて参りたい。

### 一般質問を終えて

私は、今人生80年と言われるちょうど真ん中の世代です。今まで社会を支えてこられた高齢者世代の方々、その方々の安定した生活を考えること、また今から育っていく子どもたちが夢を持ち、明るい未来を幸せに暮らすことができるような、生きる力の育成と環境づくりを行っていくことが、これから私の議員としての課題であると改めて感じています。この大きな課題を達成するために、できることから一つひとつ全力で取り組んで参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。



〈議場スケッチ〉

# 平成19年度 委員会報告

徳島県議会には常任委員会4委員会と特別委員会4委員会があり任期は一年、私の所属する明政会では、一年交代で4委員会すべて所属するようになっています。平成19年度は、総務委員会と交通交流対策特別委員会に所属しています。

## ◎常任委員会

(総務・経済・県土整備・文教厚生の4委員会)

**総務委員会**とは、

- 企画総務部、県民環境部、危機管理局、出納局、
- 公安委員会、選挙管理委員会、人事委員会及び監査委員に関する事項・他の常任委員会の所属に属しない事項に対しての質疑・審議を行う委員会

### 《豆知識① 委員会について》

議案その他、必要な事項は、すべて本会議で決定しますが、県の仕事は広範囲で複雑なので、たくさんの議案を一つ一つ本会議で審議するのは非効率です。そのため、4つの常任委員会を設けて、専門的にいろいろな面から詳しく審査しています。また、特に重要な案件があるときは特別委員会を設けてその特定の事柄を審査します。

## \*特別委員会

(交通交流対策・少子高齢化対策・防災対策・環境対策の4委員会)

**交通交流対策特別委員会**とは、

**交通ネットワーク**

- (空港・重要港湾・高速道路・地域高規格道路)整備に関する調査

**交通ネットワークの利活用**

- (観光など国内外との交流促進、農水産物品の物流促進)に関する調査を行う委員会



## 総務委員会だより

委員会では、県内外の現地調査に参りました。特に、30年間で50%の確率で起こると言われている南海地震への対策を調査したことをご報告します。

①

### 美波町日和佐浦の津波避難タワーを調査



県南の沿岸地域では、南海地震が起こると、5分から10分後の間に、5メートルを超える大津波が押し寄せると言われています。この地域は、海岸から近く、海拔も低く、津波到達時刻には高台の地区に避難が困難なため、住民の命を救う「避難タワー」が建設されました。タワーには倉庫に備蓄品も配備していました。鳴門にも同じような地形で海に囲まれている地域があります。鳴門の場合地震発生から津波到達時間は45分から60分と言われていますが、命を守る避難タワーの必要性を感じました。

## ② 北島町の県立防災センターで体験調査

県立防災センターでは、地震体験（実際に神戸淡路大震災や関東大震災の震度を体験）や、消火体験、煙体験、風雨体験などができます。私も実際に模擬体験をしました。地震体験では、椅子の下から突きあげるような縦揺れに対し、何もできず、座っているのが精一杯でした。昨年10月1日から緊急地震速報が出されるようになりましたが、地震が起こるまでの何十秒の間、どのように身の安全を守るのか、考える必要があると実感しました。緊急地震速報が発令された時の心構えに役立ちます。ぜひ、皆さんにもこのセンターで地震の揺れを体験し、防災に役立てていただきたいと思います。委員会において、この防災センターのより一層の有効的な活用を要望いたしました。

～県立防災センターを活用し災害に備える心構えを～

県立防災センター 徳島県板野郡北島町鯛浜字大西165  
TEL 088-683-2000/FAX 088-683-2002

### 《豆知識② 緊急地震速報》

緊急地震速報とは、地震の揺れの予報・警報です。震源に近い地震計でとらえた観測データを素早く解析して、震源や地震の規模（マグニチュード）を推定し、各地への到達時刻や震度を予想し、テレビやラジオ等により可能な限り素早く知らせます。



## ③ 地域のきずなが命を守ります。

～地域の自主防災活動に参加を～

阪神淡路大震災では隣近所のつながりが強かったところほど、救出された方の数が多く、復興に向けての立ち上がりも早かったと聞きました。

私も地震後、芦屋と長田にボランティアに参りました。学生時代を過ごした街の無残な姿に涙が止まりませんでした。そして、わずかな時間の違いで、私は地震に遭っていたかもしれないと思った瞬間身震いが起きました。いつ起こるかわからないのが災害です。

平成16年、台風第23号のもたらした大雨により、鳴門市において新池川が氾濫しました。私の家の周囲も1メートルを超える浸水をし、避難勧告が出されても、水位が高く避難ができる状態ではありませんでした。隣の方が「もう少し様子を見ましょう。」と声をかけてくださったのでとても心強かったですし、安心できました。ぜひ、命を守る自主防災活動に、地域の皆さんと共に取り組んで参りましょう。

皆さまのご意見をお聞かせ下さい。

住 所：鳴門市大津町吉永226-2  
電 話：088-685-3537 FAX：088-683-0395  
E-mail：tanko.4.-san@knd.biglobe.ne.jp

## 交通交流対策特別委員会だより

### I、平成22年に新設予定の空港ターミナルビルのバリアフリー化について 高齢者や障害者の立場に立った設計となるように要望



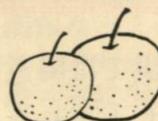
所属会派の視察で訪れた那覇空港では、ハード・ソフト両面でのバリアフリーの重要性を実感いたしました。那覇空港各所において設備のバリアフリー化を図ると共に、情報のバリアフリー化も積極的に取り組まれていました。観光案内所に、「観光バリアフリー・ツアーセンター」の窓口を設け、観光客の方のニーズに即対応できる体制が整っていました。徳島空港においても、徳島らしさが感じられ、訪れるすべての方に優しい新空港ターミナルとなるよう委員会で質問し、要望いたしました。

### II、観光県徳島としての充実のために 英語表記の早急な実現を要望

鳴門の観光地としての魅力をさらに高める取り組みを行いたいと、昨年10月に地元の方とともに、「観光地、鳴門」を検証して参りました。県では外国人観光客の誘致も、積極的に行ってています。しかし、県の施設の観光案内、施設の看板や観光パンフレット、展示の説明文について、外国語による表記が少なかったです。徳島を訪れる外国人観光客は、台湾、韓国の方が多いようですから、理想としては、英語、中国語、ハングルの3ヶ国語の表記が必要です。まずは、県の各施設から英語表記だけでも、早急に実現していただき、さらに各観光施設へも外国語の表記ができるよう委員会で質問し、要望いたしました。

## トピックス②

### ナシの全国大会開催にむけて



平成21年に徳島県で初めて第58回全国ナシ研究大会が開催されることが決まりました。この大会により「ナシ産地が活性化」し、徳島のナシ産業が大きな成長へつながるように、取り組まれています。視察園地として、県内各地のナシ農家の方も選ばれ今から準備されています。

## 編 集 後 記

昨年の秋、小学校の運動会に参加してまいりました。友だちと一緒に力を合わせて頑張っている姿や笑顔いっぱい演技する子どもたちの様子を見て、この子どもたちのために「青い、平和な地球」を守りたい、明るい未来を築いていきたいと強く思いました。その思いを込めて、この県政報告のタイトルを「未来へのかけ橋」といたしました。

2008年は環境（エコ）元年。私たち一人ひとりの小さな積み重ねが大きな力へつながっていきます。皆さまのお力添えをいただき毎日ニコニコとエコに取り組んで参ります。

皆さまのご意見、ご感想をお聞かせ下さい。